

スポーツでつなげる地域の絆

人々がスポーツで交わる活動 +S(プラス)

「PEOPLE(人々)」という単語は、異なる文化や国の人々の集まりを表すとき、Sが付いてPEOPLESになります。家族や学校、会社、団体など、さまざまな人々の集まりがさらに交わる場所を作りたいという思いを込めて「+S」と名付けました」

こう話す松山拓実さんは、スポーツを楽しむイベントを通じて地域交流・多世代交流を目指す学生主体の活動団体「+S」の創設者です。

中学1年生の時、平成28年熊本地震により避難所生活を経験した松山さんは、その生活の中で、避難者同士の交流や助け合いが少ないことに違和感を感じました。高校生になり、地域のつながりが薄れている現状を知ると、学生による課題解決学習プログラム「マイプロジェクト」に参加。スポーツによる地域交流活性化プロジェクトを発表し、大学進学後、実行に移しました。

テニス、サッカー、バレーボールとさまざまなスポーツ交流イベントを重ね、最初は一人で始めたプロジェクトも、次第に賛同者が集まり、令和5年3月、メンバーと共に正式に+Sを立ち上げました。

つながり広がる活動

eスポーツイベントで、ある児童と打ち解けた松山さん。イベント終了後、その児童が不登校であることを両親から聞き、「このプロジェクトが、その子の居場所や新しい出会いのきっかけになれたことに感動と意義を感じました」

地域の要望に合わせて出張開催する「出張!スポーツクラブ」、スポーツとeスポーツを両方楽しめる「ゲームのあとは!水アソビ」、野球盤を現実に再現する「リアル野球盤」など、若者ならではの発想でイベントを企画する+S。「この活動は、仲間や地域、多くの人とのつながりできています。そのつながりを町中に広げていきたいです」

下段写真/10月14日にふるさと元気子ども食堂と共同で開催した「へんてこ運動会」。写真左は+Sのメンバーとふるさと元気子ども食堂の皆さん

「+S」のインスタグラムをチェック!



OFFICIAL_PLUS.PJT

